

「信康事件」までの経緯

永禄10(1567)年	竹千代(信康)と織田信長の娘・徳姫(五徳)が結婚	竹千代、徳姫とも数え年で9歳だったと伝わる
元亀元(1570)年	元服し、信康が岡崎城主となる	家康の浜松移住に伴い、信康は岡崎を任され、松平三郎信康を名乗った
天正3(1575)年	大岡弥四郎事件	浜松の家康家臣団に対抗しようとした、岡崎の信康家臣団による一種のクーデター。武田軍を引き入れて信康を擁する新・徳川家を築き、自身らの地位向上を図ったが、密告により失敗。首謀者とされた岡崎町奉行の大岡弥四郎らが処刑された
天正4(1576)年 天正5(1577)年	徳姫との間に女子誕生	いずれも女子であったため、信康と築山殿は落胆。信康と徳姫の不和の原因になったとされる
天正6(1578)年 2月4日	築山殿が、深溝にいた家康家臣の松平家忠へ手紙を送る	当時の社会通念では異例で、家康からの不信を招いた可能性がある
2月10日	信康が、深溝にいた家康家臣の松平家忠を訪問	
9月	家康や酒井忠次が、三河の家臣に「岡崎在郷無用」と伝える	
天正7(1579)年 6月5日	家康が岡崎訪問	信康と徳姫の「中なをし」のため、家康が浜松から訪問したが、調停は不調に終わった
7月16日	家康の使者・酒井忠次が織田信長を訪問	家康は信長に、信康処断の方針を伝え、了解を求めたと考えられる。信長は、家康の判断に任せると返答
8月4日	家康は信康を廃嫡し、岡崎城から大浜へ移す	信康が転々とさせられた理由は不明。築山殿は家康の命で殺害された説のほか、自害したという説もある
8月9日	信康を堀江城へ移す	
8月29日	築山殿が冨塚で死去	
9月15日	信康が二俣城で自刃	